

自己評価および外部評価結果 平成27年 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所や廊下、エレベーター内に掲示し、毎日目に来るようにしている。利用者、家族、近所の方などに対して丁寧に対応するよう心掛けている。	理念は玄関や廊下など事業所内の目に付くところに掲示し、利用者・家族、地域にも明示している。職員は声掛けの方法について特に理念を意識して実践している。また、年1回の利用者・家族へのサービス評価アンケート結果を踏まえて、全職員で話し合いの機会を持っている。	事業所理念は、管理者・職員間で共有され実践に努めている。開設後8年以上が経過していることから、再度、全職員で地域密着型サービスの意義や役割を再確認した上で、理念について振り返りや見直しの機会を持ち、さらに、より上のステップに前進されることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	実習生やボランティアの受け入れも積極的に行い、日向ぼっこをしていると、散歩の人が立ち寄りてくれたり、時々近所の方が野菜をもってきてくれる。	中学生の福祉体験や実習生の受け入れ、地域住民のボランティア、趣味サークルなど日常の交流が積極的に図られている。地域の夏祭りに参加したり、近隣の農家から季節の野菜が届くなど、地域住民とのつながりを大切にした関係を構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	面会や見学に来られた方の疑問に答えたり、福祉体験に来た中学生に利用者への対応の方法を話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際を報告し、意見をいただいている。その意見と市や町内の情報を聞かせていただく事がサービスに活かされている。	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催されており、事業所の利用状況や活動報告、これからの予定などを議題に話し合いを行っている。地域の行事や予定等の情報を得る機会にもなっており、地域との関わりにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域のケア会議などに参加をし、ケアについての情報交換や研修を行い、こまめに、報告や相談をしている。	市の担当者とは運営推進会議を通じて事業所の現状を理解してもらっている。また、行政主催で行う合同ケア会議や地域のケア会議に参加し、困難事例についての話し合いや、他事業所間の情報交換も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が禁止である事を職員全員で理解し、玄関など施錠をせず安全を保てるようにセンサーを利用したりしながら取り組み、再度社内研修で理解を深めている。	年間計画に沿って年1回は身体拘束についての研修が実施されている。毎月の職員会議の時間を使いマニュアルを読み合っ日頃のケアについて確認している。本人の状況を踏まえて生活環境を整えるなどして、日常生活の中に潜む危険性を最小限にすることで、身体拘束をしないケアにチームで取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の外部研修に業務として数名参加して、その資料を回覧して疑問や気づいたことはいつでも話し合っている。	行政主催の虐待防止研修に積極的に参加し、参加した職員による社内研修を行っている。日々の申し送りで利用者のその日の状態や様子などを共有し、利用者に対する声掛けや対応に気を付けている。全職員を対象に仕事での悩み等について、地域のボランティアセンターで近日中に話し合う予定があり、職員のメンタル面への配慮もなされている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度、自立支援事業を利用された方がおり、学ぶ機会を持つことができた。それを踏まえ再度職員が制度に関する理解を深め、必要な方に対応できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金改定などがあつた場合は、内容が理解されやすいように丁寧に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時など、家族から話を聞かせてもらい、意見、要望は職員間で共有している。また家族へのアンケートでも意見をいただいている。	面会に来られる家族が多く、職員は利用者の様子を伝えながら家族からは意見や要望など、些細なことでも良く話を聞くようにしている。管理者や職員は自分達のケアが当たり前にならないよう意見を前向きに捉え、できることはすぐに取り組み運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全職員で行う会議の後、常勤者と代表者、管理者で会議を行い、職員の意見等を聞き反映させている。	毎月20日を会議の日と決めて、経営会議、合同職員会議、運営会議の順で会議が開催されている。職員から出された意見や提案は、運営会議で検討した後すぐに現場にフィードバックされる仕組みが取られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が向上心を持って働けるよう、勤務希望にも柔軟性を持って調整出来るよう努め職員の資格取得に向けた支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修会や学習会には多くの職員が参加出来るよう機会をもうけ、内部での研修も毎月実施している。毎日の業務の中もお互いに教えあっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会や勉強会に参加し、日頃のケアの悩みなどを話し合い、他のホームの工夫などを取り入れていけるよう努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からのお話だけでなく、本人の様子を見て困ったり、不安になったりしないように細やかに対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの段階からご家族の困っている事、不安な事、求めている事などをじっくり聞きご家族が安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が今一番何を必要としているかを見極め、グループホームだけに留めておらず、地域包括支援センターや他の事業所等と連携しながら、必要なサービスが使えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したり、たたみもの、テーブルふきやおしぼりを一緒に準備したり、職員の知らないことを教えていただいている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には普段の様子をお伝えし、必要な受診時には同行をお願いして一緒に本人を支えていくよう努めている。	よく面会してくれるなど協力的な家族が多く、利用者から外出等の声が聞かれた際は、その希望が実現するように、積極的に家族へ協力をお願いして関わってもらっている。また、事業所の広報誌「ぶなの木通信」を3か月に1度家族に送付し、活動の写真や日常の様子を添えて情報を伝えている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を特に設けずいつでも来ていただけるようにし、また家族との外出も続けていただいている。	知人や親戚の方々が気軽に会いに来てくれたり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族と協力しながら支援している。地域行事や交流会への参加を通じて、新たな馴染みの関係づくりにも働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握し、情報を共有している。関係がうまくいこう、食席を工夫したり、会話に入ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった場合は、ダメージを最小限に食い止めるために出来るだけ細かく、本人の状況や情報などを詳しく伝えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中の、言葉や表情などから本人の思いをくみ取ったり、本人に聞きながら希望や意向を出来る限り実現できるよう努め、困難な場合は、家族などに聞きながらより一層関心をはらい話し合うようにしている。	利用者がその人らしく暮らし続けるための支援に向けて、個々の表情や行動、言動、しぐさから意向を把握し、その人に合わせた対応を心掛けるように職員同士情報を共有している。個々の思いや暮らし方の希望を尊重した支援に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅サービス担当者や本人や、家族から話しを聞かせてもらい、入居されてからも毎日の生活の中から把握するよう努めている。	これまでの生活の継続が図られるように、生活歴、日々の暮らし方への要望等、MDS方式やセンター方式等を用いながら、本人が望む暮らしの把握に努めている。さらに、入居後も本人の大切にしてきた生活歴や地域の中での関わりへの把握が継続されている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し、その人の出来る力、分かる力を見つけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から要望や意見などを聞き、日常の関わりの中からの気づきやアイデアなどを職員から聞いている、また職員で行うモニタリングでは、多くの意見を出し合い検討している。	利用者・家族の希望や意向に添って介護支援専門員が中心となり作成している。毎月の会議時に、利用者のモニタリングを行い目標達成を確認し合いながら、新たな気づきや工夫を取り入れ現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきなどを個々のケース記録に記入し、個別の連絡などは連絡ノートに記入し、職員同士情報の共有をし日勤前と夜勤前の申し送りは必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況や、要望に応じ、通院や買い物など必要な支援などに柔軟に対応し、本人やご家族の負担の軽減と満足を高めるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニ、美容院、眼鏡店などを利用して頂き本人が暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されるかかりつけ医と、協力医のどちらでも医療を受けられるようにしており、かかりつけの医師に往診に来ていただいている利用者もいる。	本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医と協力医から医療を受けられるようになっている。家族が同行する場合は本人の様子や相談事等を文章で伝え、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約をしており、毎週1回の訪問と24時間対応してもらえる体制が確保されており気軽に相談できる関係も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人支援の為の情報を医療機関に提供し、家族との情報交換を頻繁にしながらか速やかな退院の支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に変化がみられた時に、本人、家族と相談し、意向を聞きながら対応している。医師や訪問看護師と連携をとり、情報を共有したり、家族に説明してもらったりしている。	終末期に向けた対応については、入居時、また状態の変化がみられた時に本人・家族の意向を聞きながら対応している。利用者の状態を経過と共に丁寧に記録し、医師や訪問看護との連携を強化し取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変などに備え、年に1回消防署から来てもらい、心肺蘇生、異物除去、AEDの使用方法的の講習を受け、練習をしている。	年1回、消防署の協力を得て、AEDの使用訓練、応急手当等の講習を受け、全ての職員が対応できるよう訓練日程を調整している。急変や事故発生時は対応マニュアルに沿って連絡・指示を仰ぐ等、連携が図られている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回の自主的な消防訓練、年1回の消防署の協力を得ての訓練を行い、近所に職員も住んでおり協力を得られる体制をととのえている。	年1回の消防署立ち合いの訓練と火災や地震想定自主消防訓練を2か月に1回行い、全職員が災害に対応できるよう努めている。また、市の防災無線も事業所内に設置されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が居室に鍵をかけたいときはかけていただいている。トイレへの声掛けも周りの方が聞き苦しくないように、心がけている。	利用者と馴れ合いにならないよう、意識して丁寧な言葉を使い適切な距離を持ちつつ、対応を心がけている。トイレ誘導時の声掛け等もプライバシーに配慮している。また、難聴の方へはジェスチャーを交えて伝わるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最初から職員の決めた事をおしつけるのではなく、本人の希望を聞いたり、自分で決める事の出来るような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のその人の状態などに合わせその人のペースで過ごして頂けるよう柔軟に対応していける支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の着替え、入浴後の着替えなども本人の好みに決めていただくように努め、理美容院などでも好みに合わせたカットをしてもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物食べたい物などを聞きながら献立をたてたり、食事の準備・食事・片付けを一緒に行うようにしている。また、落ち着いて食事できる雰囲気作りも心がけている。	年1回職員は、地区の管理栄養士から調理指導や食中毒の研修を受け食事作りの工夫をしている。近所からの差し入れ野菜をメニューに取り入れることもある。職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	利用者の中には、見守りや支えがあれば個々の力を発揮できることがたくさんある。今後も引き続き、食事の準備・片づけ等を職員と共に行い「作る楽しみ」「作る喜び」が感じられる環境づくりが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に栄養士から、アドバイスをいただいている。その人にあった食事形態、食器、飲み物の温度など工夫しながら、栄養や水分が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が、口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に一人一人に応じた口腔ケアの介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンをつかみながら時間をみて誘導するようにしている。トイレの場所がわからない方がみつけやすいよう表示を大きくしたり、誘導したりしている。	個々の排泄パターンを職員が共通認識し、状況に合わせてトイレに誘導、排泄の手伝いの支援が行われている。また、プライバシーへの配慮、トイレでの排泄の自立を目指した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事で繊維質の多い物や乳製品などを取り入れ、午前中の体操で全員で体を動かし、個々にも運動の声かけなどをし、自然排便の出来る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応の曜日などを決めているが、本人からの希望があった場合などは、可能な限り希望に添えるように支援し季節に合わせた変わり湯なども工夫している。	週3回の昼間に入浴時間を設けているが、一人ひとりの希望や習慣、タイミングに合わせて入浴が楽しめるよう対応している。浴槽は手すりのある温泉風の設備や重度の利用者用にシャワー用車椅子も取り付けられ、安全・安楽に入浴できる環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日の生活リズムを整え、一人一人のその日の体調などを考え、室温や照明を調節し、ゆっくりと安心して休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の内容をすぐ分かるようファイルにし、間違えのないよう朝・昼・夕に袋の色を変え名前を確認し飲み込むまで見ている。症状の変化は主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・片付け・洗い物・掃除・干し物など、その人の得意な所を活かし仕事をお願いし、外出・外食・ボランティア・行事や行事食など楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り、日光浴や散歩などを心がけ、本人の希望に合わせてドライブなどに出かけている。また家族と外出して知人宅へいったり、外食をされる利用者もいる。	天候等を考慮しながら散歩やドライブ等に出かけるよう努めている。玄関前にはベンチがあり、お茶会による日光浴を楽しんだり、地域の文化会館の催し物やコスモス畑への外出を支援している。また、家族の協力を得て、希望の場所への外出支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人に応じて、お金を所持されたり、買い物された時など自分で支払うことがある。満足感や安心感を考えながら、支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のかけ方がわからない時は手伝い、手紙を出す代行も頼みやすい雰囲気作りをし、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間などには、ひざ掛けや本、ゆったり過ごせるソファなどを置き、食堂には、いつでもお茶が出せる工夫をし、廊下などには季節の花・絵。写真などを飾り、季節感を取り入れている。	廊下には外出時の写真や利用者の作品を展示し、リビングには季節の花が飾られ季節感を取り入れている。また、ソファの配置や畳のコーナーがゆったり過ごせる家庭的な雰囲気であり、いつも職員が居て居心地の良い空間作りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにゆったり過ごせるソファや腰のおろせるカーペットを敷いたり、畳の居間を用意したり、玄関にベンチを置いたり好きな所で過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地よく過ごせるように、使い慣れた寝具やテレビなどが置かれ、写真や飾り物も本人の好みのものが使われている。	各居室は個々の状態に合わせて安全面に配慮された工夫がされている。自宅からは愛用の寝具類、思い出の品々が自由に持ち込まれている。また、外泊後は馴染みのものが増え、安心して暮らしやすい雰囲気を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の「出来る事」「わかる事」を職員全員が理解し、状態が変わったときには、話し合いをもち、常に安全で自立した生活が送れる環境を作るよう工夫している。		